

学生の皆さんへ

## 北海道の新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた本学の対応について

2020年11月11日

学長 野村 陽子

雪の季節を迎え、北海道では新型コロナウイルスの感染拡大が札幌を中心に全道に広がっています。9月28日から当大学の“新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針”を「レベル0.5」として、対面授業の増加、大学内の施設利用、課外活動などを感染防止対策の徹底を図りながら、通常の学修活動に近い形としてまいりました。

しかし、昨今の北海道全体の感染拡大状況から、11月12日に行動指針のレベルを「0.5」から「2」に引き上げることとしました。大学での活動は集合して行うことが多く、他の教育機関ではクラスターの発生も相次いでいることから、感染防止対策を強化することを狙いとして引き上げます。

一方で、コロナと共存をしつつ教育体制や学修環境を確保することを目指していきたいと考えています。そのために、今回、新たに①感染拡大地域に行く場合に届け出を必ず行うこと、②特に学食やラウンジでマスク着用、会話の自粛、そして3密を避け、冬季であっても換気を徹底すること、③クラスターの発生が起りやすいためサークル活動の一時停止を行い、大学内で安心して学修できる環境をつくっていきたいと考えています。これまで示してきた「行動指針レベル2」の内容はコロナと共存する観点から若干の見直しを行いました。詳細については、学生部から配信される「新型コロナウイルス感染拡大に伴う11月12日からの本学の対応」を熟読して、感染防止対策の徹底にご協力ください。

最後に、大学でコロナ感染症の発症者が出た場合でも、安心して治療が受けられ、また観察期間を過ごせるような体制づくりも必要です。この地域で感染者が出た場合でも、本人が過度な情報伝達にさらされたり風評被害に合うことがないように、友人や身近な人が感染者となった場合には、まずは、感染症がもたらす影響について正しい知識を学習して、ケアを学ぶ本学の学生として感染者を暖かく見守り支えあう姿勢をとっていきましょう。この大学にいてよかったと思えるよう、大学の教職員一同で頑張っていきたいと思えますので、今度とも、ご協力をよろしくお願いいたします。